

Title	プロフェッショナル組織のマネジメント - Subtle Management Model -
Sub Title	
Author	加藤多津子(Katou, Tatsuko) 奥村昭博
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1999
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1999年度経営学 第1498号 可能
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001999-1498

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

所属ゼミ	奥村 研究会	学籍番号	89828222	氏名	加藤 多津子
(論文題名)					
<p>プロフェッショナル組織のマネジメント - Subtle Management Model-</p>					
(内容の要旨)					
<p>現代社会を国際的に見渡すと、情報技術の発達による情報化、各国間のボーダーレス化による物質や金融、情報などの流動性の増加の風潮が高まっている。戦後の日本は、そのような流れの中、1980年代までは圧倒的な国際競争力を保持していたが、90年代の高度経済成長の頭打ち以来、多くの人々が既存の政策・企業経営スタイルに疑問を持ち始めた。その結果、グローバリゼーションがますます進行する国際社会での生き残りをかけて、真摯に新しい経営モデルを模索しはじめている企業が、連日のように紙面をにぎわしている。その一方で既存の組織体制の制度疲労にすら気付いていない組織の一つが、プロフェッショナル組織ではないだろうか。</p> <p>大学、医療機関などのプロフェッショナル組織は、国からの諸規制という厚い殻を被り、倫理観ベースや研究世界に浸りきる結果、現実社会への視野を閉ざしてきたことで、実際には社会ニーズと組織の間の隔たりの大きさは、かなり深刻な状況である。</p> <p>本論文ではこのような問題意識に基づき、21世紀に向かって国際的なレベルを保持しつつ、独自の価値観を持ったプロフェッショナル組織のあり方を探る。そして今までの組織の問題点と、かかる理想像とのギャップを、プロフェッショナル個人と組織の固有の特性に注目して分析し、マネジメントサイドの立場に立った組織の革新を促進させる施策の導出を試みる。</p> <p>なお、このマネジメントモデルを導出するに当たり、画期的な革新行動を継続している2つの事例を参考にした。</p>					